

浦山益郎

さん

三重大学大学院工学研究科教授

前葉泰幸

津市長

## 人口減少と高齢化時代の都市計画

平成29年5月22日、津市の都市マスタープラン等策定推進アドバイザーで、津市都市計画審議会の会長もお務めいただいている浦山益郎さんをお迎えし、高齢化時代を安心して暮らせるようなまちづくりについて前葉泰幸市長がお話を伺いました。

撮影/市本庁舎

**市長** 三重大学大学院工学研究科教授の浦山先生は、都市計画やまちづくりなど幅広い分野でご研究を進めていらっしゃいます。まずは、先生から都市計画の制度についてご説明いただけますか。

**浦山** 都市計画の基本的な仕組みは、都市活動や人口の将来予測をして、そのために必要な市街地規模を想定し、道路、公園、上下水道などの施設を配置して、住みやすい都市環境を整備するものです。言わば都市の成長をコントロールして効率的に公共施設を整備するための枠組みのようなものです。

**市長** 旧津市では、大正14年に都市計画法の適用を受けて以来、計画的に市街地の拡大整備が図られてきました。都市計画税については、旧津市では昭和31年から市街化区域の土地・建物に課税が始まり、市町村合併から5年経った平成23年度から旧久居市、旧河芸町、旧香良洲町も課税対象となりました。

**浦山** 都市計画税は、道路や上下水道などの都市

施設を整備するための目的税です。一般的に市民の皆さんには、都市計画という言葉が聞くと、土地利用を規制するものだという印象が強いかもしれませんが、都市計画とは、都市施設を整備し、良好な環境を保全することで快適な都市生活や効率的な都市活動を行う基盤を整えるものです。

**市長** 都市計画という制度、そしてその財源となる都市計画税によって、まちづくりが進み、人口が増え、産業が発展し、経済が伸び、市街地が計画的に拡大していくということですね。ただそれをやみくもに進めるわけではなく一定の方針が必要となります。市町村は都市計画法第18条の2第1項に基づき都市計画に関する基本的な方針を定めることになっています。それが「都市マスタープラン」です。現行の都市マスタープラン策定の時にも浦山先生に関わっていただきましたが、当時どのような議論がなされましたか。

**浦山** 現行の都市マスタープランは、平成22年に